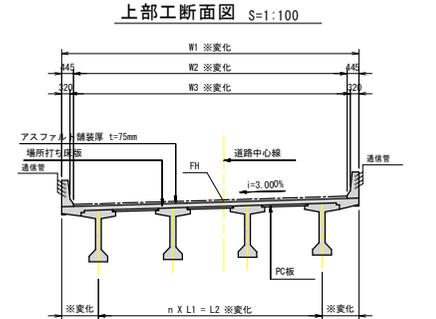
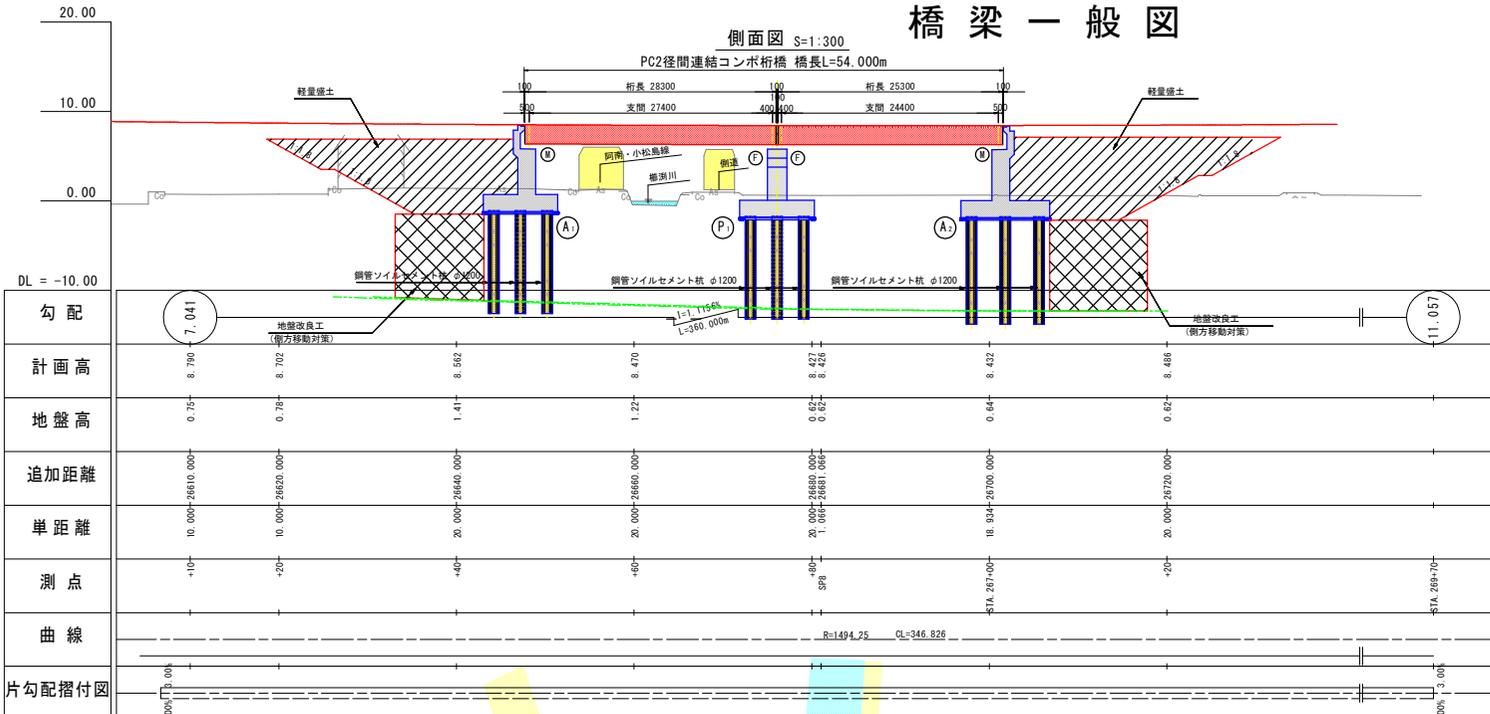
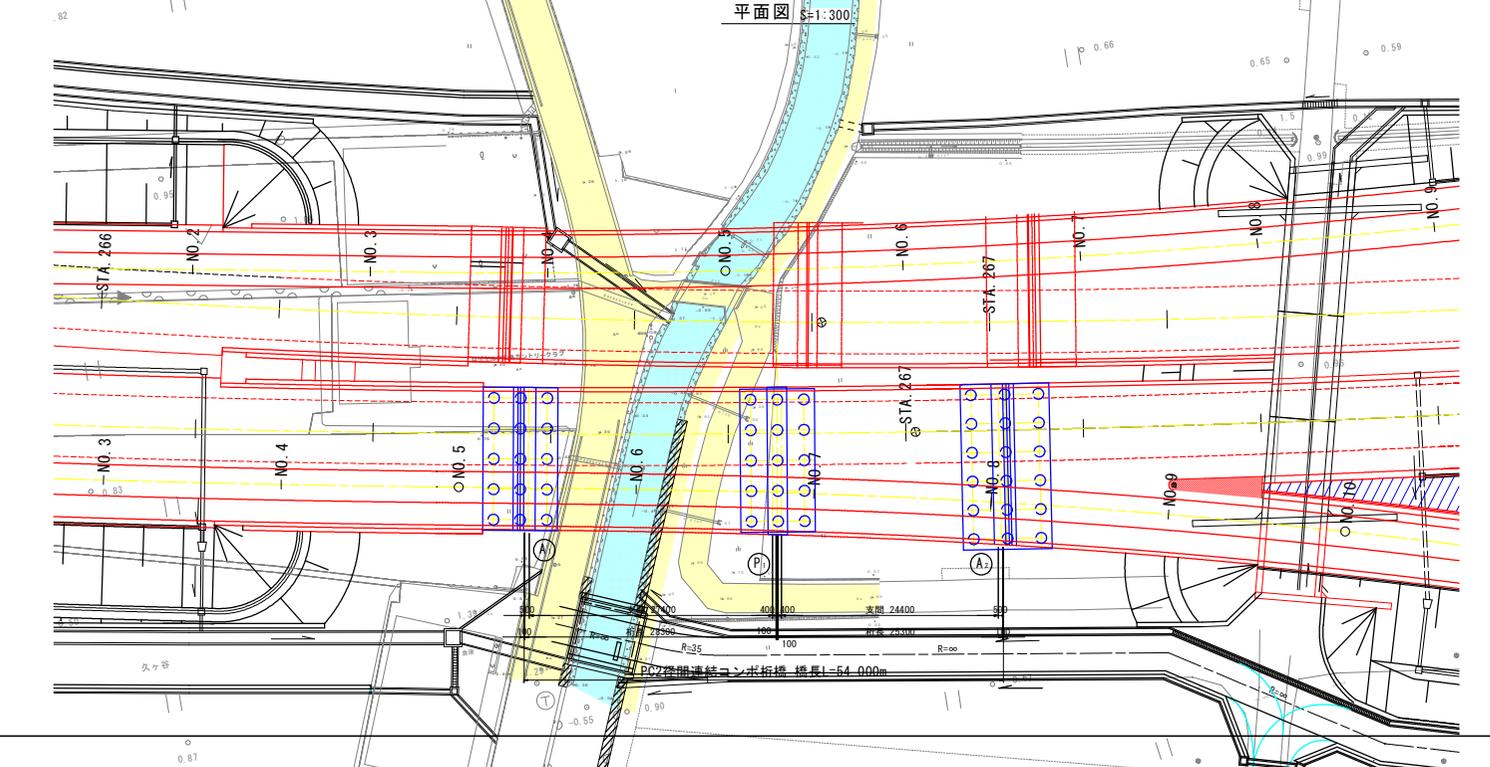


橋梁一般図



注) 縦断は下り線を示す。



道路条件	
路線名	ランプ・阿南小松島線 本線：四国横断自動車道
道路規格	ランプ：A規格ランプ 本線：第1種第2級(暫定時：第1種第3級相当)
設計速度	ランプ：V=40km/h 本線：V=100km/h (暫定時：V=80km/h)
設計高 陸上	B法標準
大型車高交通量	1000台以上2000台未満 (台/日/1方向)
文基物件	阿南小松島線、棚瀬川、街道
幾何条件	
橋梁名	(仮称) 棚瀬橋
橋長	54,000m (道路中心線上) ※想定
支間長	27,400m+24,400m (道路中心線上) ※想定
有効幅員	W(ランプ影響により変化)
斜 角	$\theta = 90^{\circ} 00' 00''$ (道路中心に対して) ※想定
縦断勾配	3.00% vcl 1.11%
横断勾配	3.00%
構造形式	
上部工	PC2径間連続コンボ桁橋(プレキャストセグメント桁) ※想定
舗装	アスファルト舗装 t=75mm
下部工	逆T式橋台・張出し橋脚 ※想定
基礎工	鋼管ソイルセメント杭基礎 A1・P1・A2:φ1200 ※想定
支 承	固定：P1橋脚、A2橋台 可動：A1橋台 ※想定
荷重条件(耐震条件)	
橋の重要度区分	B種の橋
地盤種別	Ⅱ種地盤
地域別修正係数	A2地域・C ₂ =1.000、C ₁ z=1.000、C ₂ z=1.000
耐震性能	永続作用及び変動作用：限界状態Ⅰ 偶発作用：限界状態Ⅱ
設計水平震度	L1地震：Kh0=0.30 L2地震：Kh0=1.20 (Type1)、Kh0=1.50 (Type2)
設計概要	
上部工	限界状態設計法、部分係数設計法、格子桁構造の影響線解法
下部工	限界状態設計法、部分係数設計法、静的解析、動的解析
基礎工	限界状態設計法、部分係数設計法、静的解析
材料の条件	
コンクリート	$\sigma_{ck}=50\text{N/mm}^2$ (主桁) $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ (場所打ち) ※想定
P C 鋼 材	SMFR7BL12S12、7SMFR19L12S1、8SMFDLS12、9 ※想定
鉄 筋	SD345
コンクリート	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$ ※想定
鉄 筋	SD345
鋼 管	SKK400、SKK490 ※想定
鉄 筋	SD345 ※想定
製作-施工	
上部工	主桁・PC床版：工場制作、その他は現場施工 ※想定
架設	トラッククレーン架設及び架設桁架設 ※想定
下部工	現場施工 ※想定
基礎工	鋼管ソイルセメント杭工法(補助工法あり) ※想定
維持管理	
定期点検(5年/回)	上部工：構装点検、下部工検査路の利用 ※想定 下部工：高所作業車及び下部工検査路の利用 ※想定
異常時点検	支承、桁端部、柱基部に対して、地上または橋面及び検査路で実施する ※想定
参考文献	
通用基準	道路橋示方書・同解説 平成29年11月(日本道路協会) 設計便覧(案) 平成30年7月(四国地方整備局)

実施設計図面

工事名	R2国土 阿南小松島線 小・棚瀬橋設計業務 (6)
路線名等	阿南小松島線
工事箇所	小松島市棚瀬町(第6分割)
図面名	橋梁一般図
縮尺	1:300 図面番号 1/1
会社名	
事業者名	徳島県東部県土整備局